

「映画『シュリ』から、現代史：朝鮮半島の戦後と今を 少しでも知ろう！」の授業

2019・8

○ 2002年 World Cup サッカー日韓共催のことを知っていますか？

世界地理の始めに、こんな話をしました。



「いろいろな世界の国について、これから勉強をします。その時に、みんなは、いろいろなイメージをその国について持っているでしょう。テレビやネットで話題になっていたり、本で読んだり、友達や家族のうわさを聞いたりするところもあるでしょう。その話の中には、プラスの面も、マイナスの面も両方あるでしょうね。日本についても、世界中の人たちは、いろいろなイメージを持っています。

でも、今の時代はフェイクニュースが問題になっているように、ほんとうのことばかりとは限らない、そして、そのイメージにとらわれて、相手の国や地域の人々を、バカにしたり、軽蔑したり、嫌いだと言ったりすることは、まちがっています。なぜかわかるかな？好き・嫌いを言うよりも相手のことを理解しようとするのが、人間関係を作っていく。つまり、友達との関係と同じ。人と人のことだから、よく知らないのに、決めつけることで、相手の国や地域の人々を、傷つけるのは、社会科の勉強としてまちがっているでしょう？だから一番大事なのは、バカにしたり嫌いだと言わないこと、よく知ろうとすることです。むやみに嫌って攻撃することを「ヘイト」と言います。英語で「憎しみ」だね。

政治やニュースでは、わざと対立をしているように見せるニュースもあります。

例えば、トランプ大統領は2017年9月、国連で「ロケットマン(金正恩)は自殺行為、北朝鮮は見たことのない炎と怒りを見るだろうし、必要があれば完全に破壊されなければならない」と演説し、金正恩党委員長も「グアムを攻撃する用意がある。トランプは火遊びを好む、ならず者・ごろつき」と演説しました。国の代表であるにもかかわらず、お互いを「チブ、デブ、子犬」「年寄り、老いぼれ」とののしり、ロシアの外相に「幼稚園のケンカ」とまで酷評され、戦争が起きるのかと世界の人々は震え上がりました。

<https://www.asahi.com/special/trump-kim/>…このやり取りは傑作！

しかし、約半年後に首脳会談をしたことを覚えていますか？ 今もあまり核開発の状況は変わらないのに、以前のような悪口の言い合いは止めています。あの悪口の攻撃しあいは何だったんだろうと世界中の人が思った位です。悪口の言い合いを止めたのは、必要がなくなったからです。だから、表面のニュースだけに振り回されないことも大切です。



未来の平和な世界を作るためには、お互いのことをよく理解することが大切！」

長くなりました。

隣の国同士のことなのに、最近の現状は目をおおうばかりです。

こうしたことを、わざわざ子どもたちの前で言わなければならないほど、政治状況とマスコミ報道は、世論をあおっているともみえるくらいです。ヘイトクライムを助長していて、冷静さを欠いていると思います。教育の現場でこそ冷静でないといけません。



でも、つい20年前のワールドカップサッカー、日韓共同開催の時には、お祭り騒ぎで日本と韓国の交流や、それぞれの国の相手国への感情も、盛り上がっていました。それ以来、日韓では、衣食住の文化、音楽・映画・ドラマなどの文化の交流が、20年。盛んに行われてきたことを忘れてはいませんか。実際に、焼き肉も冷麺もキムチもすっかり家庭の中に入ってきました。コスメ、韓国のポップス、ドラマ、ファッション…若い女性も年配の女性もそこはこだわりません。年配の男性の中にも、テレビで毎回韓国の時代劇を見ている人も多いでしょう。



でも、戦後の朝鮮半島のことを理解せずには、友好関係も築けません。(戦争中・植民地時代のことは、戦前の歴史の中で、しっかり伝えることが必要で、これは別に稿を譲ります)

私自身が、戦後の韓国と北朝鮮の関係について、大きく考えを変えるきっかけになった映画『シュリ』を、中学三年生と見る授業を6回ほどしています。

映画を見た後、この映画の背景について、子どもたちに、時代状況やそれぞれの国の置かれている状況を詳しく説明します。大韓航空機爆破事件、キムヨンヒ元死刑囚、田口八重子さん、横田めぐみさん、にも触れて、実際にあったことの解説もしました。他にも、実際に潜入したスパイ同士が、人間として魅かれあってしまったという仰天するような事実の新聞記事も読みます。そして、それ以上に、事実として、北朝鮮と韓国の間で2万人ものスパイの命が失われていたことを重く感じたと話します。



この映画を使うのは、頭ではなく、ハートで感じる事ができる映画だからで、どんなに口でわかったつもりでいても、私自身が、本当には民族の分断の歴史とその感情が理解できていなかったと痛感したためです。

日本語の吹き替えではなく、韓国語で映画を見ながら、それぞれの男性側なら男性側、女性側なら女性側のスパイへ、感情移入ができ、それが悲劇を生むことがわかるので、中学三年生は、見てよかった、よくわかった、他の人たちも見ろべきだ、と感想を言ってくれています。朝鮮半島の南北問題に、関心を持つきっかけになっています。

1 映画『シュリ』を見よう！ プリントから……あらすじ

登場人物

イ・ジャンギル (韓国特殊部隊員) ユの相棒で親友	主人公 ユ・ジュンウォン (韓国特殊部隊員)	イ・ミョンヒョン (ジュンウォンの 婚約者)	パク・ムヨン (北朝鮮の特殊 部隊長)	イ・バンヒ (北朝鮮の狙撃手 殺し屋)
				
韓国側			北朝鮮側	

物語

1992年9月。北朝鮮。

第八特殊部隊の工作員候補が実戦さながらの命をかけた訓練を行っていた。部隊長のパク・ムヨンは、女性工作員イ・バンヒの優れた戦闘能力を見抜き、やがて韓国へ、潜入スパイとして送り出した。

1998年9月、2002年サッカーW杯のために、南北朝鮮統一チームが結成された。韓国のソウルでは交流試合が行われるというニュースで盛り上がっていた。しかも、両国の大統領が招かれ観戦することになっていた。

韓国情報機関OPの情報部室長ユ・ジュンウォン(主人公)には、アクアショップ(熱帯魚店)の恋人イ・ミョンヒョンがいた。彼女とは一ヶ月後に結婚する約束をしていた。

韓国情報部に、武器密売人イム・ボンジュから連絡があった。命が危ないので、かくまってくれれば、北朝鮮についての情報を話すというらしい。しかし、ジュンウォンと相棒のイ・ジャンギルが約束した待ち合わせ場所:スーパーに行くと、彼は逃げ出し、何者かに狙撃され即死してしまった。現場のようすから、北朝鮮の女性スパイ:イ・バンヒが関係しているらしいとジュンウォンたちは直感する。

バンヒは、腕利きの殺し屋(スナイパー)で、韓国にもぐりこみ、これまでもたくさんの重要人物を殺して、しかも、一年以上もどこに行ったか、その姿が煙のように消えてしまっていたのである。そして、今回バンヒのしわざだと見られるこの事件が起きたのだった。

ジュンウォンとジャンギルは、調べていくうちに、バンヒが武器密売人と組んで、恐ろしい新兵器、液体爆弾CTXを軍の研究所から盗み出そうとしていたことを突き止めた。しかし、二人が研究所にかけつける直前に、またも関係している研究員が首に針を刺されて死んでいた。

CTXは、トラックで、他の場所に移されようとしていたが、そこへ北朝鮮特殊部隊が現れ、銃撃戦の末、奪って行ってしまった。このCTXを、北朝鮮はどう使おうとしているのだろう。

しかし、それにしても、いつもかけつける前に、相手が暗殺されているのはおかしいとして、ジュンウォン、ジャンギルは、お互いに相手のことをスパイではないかと疑い出した。二人の上司も、二人のどちらかがスパイではないかと疑い始める。それぞれが盗聴器を相手の家や車につけてから動き出した。

一方、北朝鮮女殺し屋、バンヒは、部隊長パクから、ジュンウォンの暗殺命令を受けていた。しかし、彼女は、まちがって違う人間を撃ってしまう。ジュンウォンは自分が標的だと気づき、恋人のミョンヒョンが次にねらわれると考えて、彼女をホテルにかくまうことにした。しかし、彼女は、以前にアルコール中毒でやめた酒をまた飲んでいて、彼女が、なぜそれほどまで、苦しんでいるのか、ジュンウォンにはわからなかった。

北朝鮮特殊部隊長パクから脅迫の電話がかかってきた。ソウル十か所での爆破を予告してきたのだ。必死の捜索にもかかわらず、一つ目のCTXが高層ビルで爆発し、けが人があふれ出る。ジュンウォンは、敵をおびき出し、特殊部隊員たちと銃撃戦になる。けがをしたバンヒは逃亡する。それを追いかけて行った時に、バンヒの正体は明らかになってしまう。

済州島の療養センターで、療養生活(病気を治すために入院している)を送っている女性の名前こそミョンヒョン……。

交流試合当日、パクから、韓国情報機関に電話が入った。1000万ドルと飛行機を用意すれば、隠してあるCTXの場所を教えると言う。

韓国側は、ほとんど全員が空港へ向かった。一方、ジャンギルはバンヒを逮捕しようと向かうが、逆にパクに撃たれ、ジュンウォンの目の前で死んだ。

数万人の観客が集まったサッカースタジアムでは、試合が始まろうとしていた。パクのねらいは、空港ではなく、このスタジアムだった。ジャンギルからサッカーチケットを渡されたジュンウォンは、どうもスタジアムで何か起こると直感した。いよいよ、パク達の真の目的が明らかにされる。それは、テロを行い、もう一度朝鮮戦争を起し、北朝鮮が勝って朝鮮半島の統一を果たすことだった。ミョンヒョンやジュンウォンの運命は……？

監督インタビュー



Q：物語の背景に、敏感な南北問題を持ってきたのはなぜですか？

A：戦後生まれなので、南北問題は他人の話のように思っていたのですが、大学のころから関心を持ち始めて、シナリオを何篇か書いたこともあります。今回の直接のきっかけは、ニュースで北朝鮮の食糧不足問題を聞いたことです。それから話を色々と発展させていくうちに、南北問題に関連する内容であれば、今回やりたいと思っていたアクション物でも、スパイ物でも、無理のない展開ができるという結論に達しました。

また前作のシナリオを書いている時に、中国に4カ月ほど滞在しました。その時に北朝鮮からの留学生たちと知り合って、彼らの留学先の大学寮で毎日同じ時間にご飯を食べたり、一緒に卓球をやったり、ビールを飲んだりしました。

始めはお互いにぎこちなくて「私たちとは違う」と思っていたのですが、長く一緒にいたら、そんなことは全く感じなくなりました。よく普段「二つの国(韓国と北朝鮮)を統一すれば、混乱が起きる。ちゃんと適応できない」などと言われますが、彼らに会って、南北を隔てる心の壁が、どんなに簡単に崩れるかというのを感じました。彼らが「シュリ」に決定的な影響を与えたわけではありませんが、私なりに南北関係を整理する助けになったのは事実です。

ストーリーと共に映画の重要なシチュエーション

- ① 北朝鮮と韓国側に、それぞれスパイがいて、情報合戦・テロ行為をしようとしていた。
- ② 北朝鮮側の女性スナイパーは、日本で整形手術を行ったうえ、韓国情報部に潜入し、情報を得つつ、要人暗殺を行っていた。
- ③ 北朝鮮側の暗殺部隊が、過激な行動を計画。両国の大統領と党委員長が同席する南北親善試合で爆破テロを起こし、一気に戦争を再び起こそうとする。
- ④ 韓国側の情報部員はその計画を見破り、テロを止めようとする。
- ⑤ それぞれの任務の職責を果たそうとする韓国情報部員と北朝鮮女性スパイ、しかし、彼女は潜入し、情報部員とニセの結婚の約束をしているうちに妊娠し、別の人生を送れるのではと夢見る。
- ⑥ 北朝鮮側の部隊長は言う。「**韓国の繁華街で客が酔っぱらって吐いている時に、北朝鮮では飢えた子どもが死んでいる。もう待つのは限界だ**」
- ⑦ 北朝鮮部隊の爆破作戦が失敗した時、最後の手段で南北のリーダーを暗殺するのが、北朝鮮女性スナイパーの役割だった。それを止めるのが韓国側男性情報部員の役目。北朝鮮側の爆破テロ作戦は失敗し、暗殺を止めるために男性情報部員は、婚約者だったスナイパーを撃つ。
- ⑧ 生き残った情報部員は、彼女があえて、彼に自分を撃たせたことを知る。**恋人同士が殺し合う悲劇が象徴する分断の歴史。**

「分断の事実が、スパイと恋人という矛盾する立場を作り、彼女の人格を引き裂いた」



2 映画『シュリ』の中に反映されている現実とは？

◆あの映画の中で、本当のことは、どのぐらいなのか？

最初の北朝鮮の訓練シーン……全部ウソとは言えないらしいが、ナゾです？
ソウル市内の銃撃戦……………今は、あり得ません。

- ①高速道路での銃撃戦は、1960年代に一度。
- ②1995年に北朝鮮の潜水艦が、韓国の海岸に進出し撃ち合い
- ③2010年国境の島で対岸同士の打ち合い

参考

①青瓦台襲撃未遂事件

1966年韓国大統領朴正熙の暗殺をねらって北朝鮮ゲリラ部隊が韓国領に侵入。大統領官邸青瓦台から800mの距離まで侵入した。
2週間の掃討作戦で1人逮捕31名死亡、韓国側も民間人を含めた69人が死亡。
逮捕された兵士が「朴正熙の首を取りにやってきた」とTVで言い、衝撃を与えた。この兵士はその後、韓国に亡命、今は牧師として生活。



②北朝鮮潜水艦侵入事件

1996年、韓国に侵入していた工作員を連れて帰るために、北朝鮮の潜水艦が海岸にやってきていたところ、座礁(岩にぶつかる)、帰れなくなった工作員達が韓国内に逃亡していた事件。工作員26人の内、射殺13人、集団自決11人、(青酸カリを飲んだ後上官が射殺)、逮捕1人、行方不明1人。2か月間捜索は行われ、韓国側の民間人も含めた死亡者は17名。



左上は実際の北朝鮮潜水艦。右がその武器、下は捜索中の韓国潜水艦

③延坪島(ヨンピョンド)砲撃事件

2010年11月、北朝鮮軍が韓国側の島を、突然砲撃。
韓国側死者4名。



これをみてわかるように、映画のようなソウル市内の銃撃事件は起きていないが、決して緊張がないわけではない。韓国では、もちろん徴兵制が重要な責務だし、朝鮮戦争が休戦中であることに変わりはない。分断の歴史を表している。

3 実際にいた北朝鮮スパイ・・・大韓航空機事件



◆金賢姫（キムヨンヒ）というスパイの告白から

＝大韓航空機爆破事件・1987年

韓国の飛行機がインドの上空で行方不明になった。
爆破されたことがわかる。その爆破させたのが、このキム・
ヨンヒともう一人の北朝鮮の老人スパイだった。
乗っていた乗客115名が死亡、海の上だったために、遺体も
ほとんど見つからなかった。

バーレーンの空港で、日本人になりすましていたキムヨンヒ
(蜂谷真由美の名前)は、パスポートが偽物だとばれて、
捕まりそうになり、二人は毒を飲んで自殺をしたが、
老人は死に、キムは生き残った。
北朝鮮側の作戦の目的は、ソウルオリンピックの妨害だった。



墜落した海上から回収された遺品

韓国に送られて、裁判で死刑判決を受ける。
しかし、北朝鮮の教育のせいで、そんなことをしたのだと同情
も集まり、恩赦(特別に大統領などに罪を許される)を受ける。
キムにとっては、しかし、生き続けることも苦しみ。
良心の呵責にさいなまれる。
また、北朝鮮の家族は、裏切り者の家族として、収容所に送られ、
人間以下の扱いを受けた後、死亡してしまうだろうから。



バーレーンで捕まった時



妨害工作を受けた
ソウルオリンピック

4 実際のスパイが受けた、北朝鮮の受けたエリート教育と訓練は？

・・・韓国を敵視して攻撃するために、女性でも能力を上げる、しかもエリート・・・

〈生き返った時〉

真っ白い部屋に私は横たわっていた。

かすかに震える目をつぶり、また目に力をこめ、大きく開けた。人々の声がぼんやりと聞こえてきた。アラビア語も聞こえ、英語も聞こえた。夢なのか現実なのか判断がつかなかった。頭のなかで混乱していた。でも、夢ではないようだった。

窓ひとつない部屋で、夜なにか昼なのか知る術もなかった。私の左の手首に手錠がかけられており、鎖で固くつながれて寝台の脚にしっかりと結ばれていた。酸素吸入器をつけれられ、胃の洗浄のため鼻と口にはゴムの管が入れられており、足には注射針が刺さっている状態だった。

「あー」

この瞬間、私は目の前が真っ暗になってため息をついた。
「死んだはずなのに、生きています。大変だ！」

生きていることは喜びではなく、苦痛の始まりであることを、私はすでに知っていた。私はまた意識がぼんやりしてくるのを感じた。

寝台のそばには、アラブの伝統の服を着たバーレーンの人々と看護婦たちが、私の病状を見守っていて、少し離れて紺色の軍服を着た人々が、機関銃の銃口を四五度の角度でかまえ、すぐに発砲できる姿勢で立っていた。次第に意識がもどってきたが、私は目を開ける気力もなく、ふたたび目をつぶってしまった。そのまま、永遠に目が開かなければいけなかった。死なずに、生き返ってしまったということが、現実でないことを願った。死に向かう最後の瞬間であることを願った。体を少し動かし、ももの内側をつねってみた。痛かった。夢ではないことを確認し、絶望感に襲われた。右の膝にひどい痛みを感じた。たぶん、気を失ってころんだとき、怪我をしたのだろう。

明らかに、毒薬入りタバコのフィルターが割れたのに、なぜ、生き返ってしまったのか。息がつかまるような思いだった。

「どんな手段、どんな方法をつかっても、死ななければならぬ」
目をつぶると、また意識がかすんできたが、夢うつつの状態においても、その一念だけは捨てなかった。看護婦たちが使っている銃を奪ったら自殺できる、と考えもしたが体はすでに固く縛られ、微動だにできない有様だった。

〈軍事訓練〉

金星政治軍事大学の教育の中でもっとも難しかったのは軍事訓練だった。これは肉体的、精神的に極限状態を克服する訓練であるといえた。

撃術訓練というのは、普通の男二名を制圧しうる能力を身につけることを目標にした手足、肘を使って急所を正確に攻撃する訓練だった。訓練方法は縄を巻いた柱を打撃して手を強くする訓練を反復するというやり方であった。この訓練は毎日三時間ずつ実施された。

行軍は、毎日夜間に一時間ずつ十キロの背囊を背負って四キロ「山岳行軍」をする。とであるが、毎週土曜日には同じ十キロの背囊を背負って二五キロを三時間で「山岳行軍」した。金日成の誕生日を迎えると、その日、四月十五日を記念する意味で四十一・五里(約一六六キロ)の行軍をした。これは「忠誠の行軍」と名づけられている。

〈キム・ヨンヒの女スパイの体験〉

タバコの吸い口に毒入りカプセルをいれたものを使った。

射撃ではピストル千二百発の実弾射撃と、AK小銃二百発の射撃をした。毎週二回、四時間ずつの教育を受けた。武器の分解、組立て、修理訓練も繰り返された。手榴弾投擲訓練もあった。二五メートルの距離で直径一・五メートルの円に投げる方法を学んだ。一回に三発を投げる訓練もあった。水泳は石蔵貯水池に行つて二キロを平泳ぎで休まずに泳ぐ訓練を十日間受けて、そのとおりできるようになった。

ビト訓練は、夜間に地図を見て指定された場所を探し出して、そこで穴を掘り、その中に入つて三日間隠れている訓練であった。度胸と根気と忍耐が必要だった。

短刀操法は短剣で相手の急所を刺す訓練である。プラスチックの模型短刀(二五センチ)を使つてその正しい握り方と急所を刺す方法を五時間でものしななければならなかった。

地形学は地図を正確に見て、指定した場所に行つて暗号文献を埋めておいて、また発掘してくる訓練であった。百時間の軍事訓練の中でもっとも多くの時間を要したのはこの訓練だった。

そのほかにも自動車運転、写真撮影、現像・印刷の実習も行なわれた。

淑姫と私は歯を食いしばってきつい訓練に耐え抜こうとした。一つ一つ克服していくことで自信が持てるようになった。恐れを知らない超能力のある女になっていくような気分だった。

「私たちはかなりの力の男数名は問題なくやつけることができるわ」

撃術と射撃、短刀操法を習いながら互いに偉そうな気分浸っていた。

教育には、講義と訓練だけではなく、映画鑑賞も入っていた。私たちは「死に向かう五人」という外国のスパイ映画を見てショックを受け、淑姫と私は映画の内容についてよく語りあった。

この映画では、女子工作員が五名の友軍偵察組に襲撃できる機会と時間をあたえるために、敵の将校をおびきよせて身体までも許しながら任務を遂行するのであった。しかし、ついにはその正体がばれて、敵の将校にピストルで撃たれて死ぬのである。淑姫は泣き顔になって「私たちがあんなことしなければならぬの？」と聞いて、私の方に振り向いた。私もそんなことをする自信など持てないと思った。

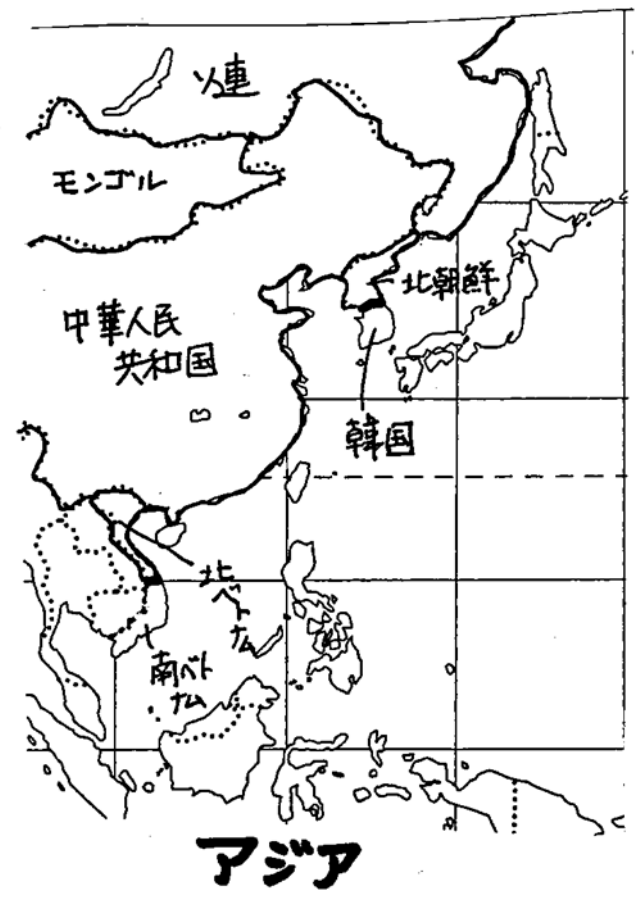
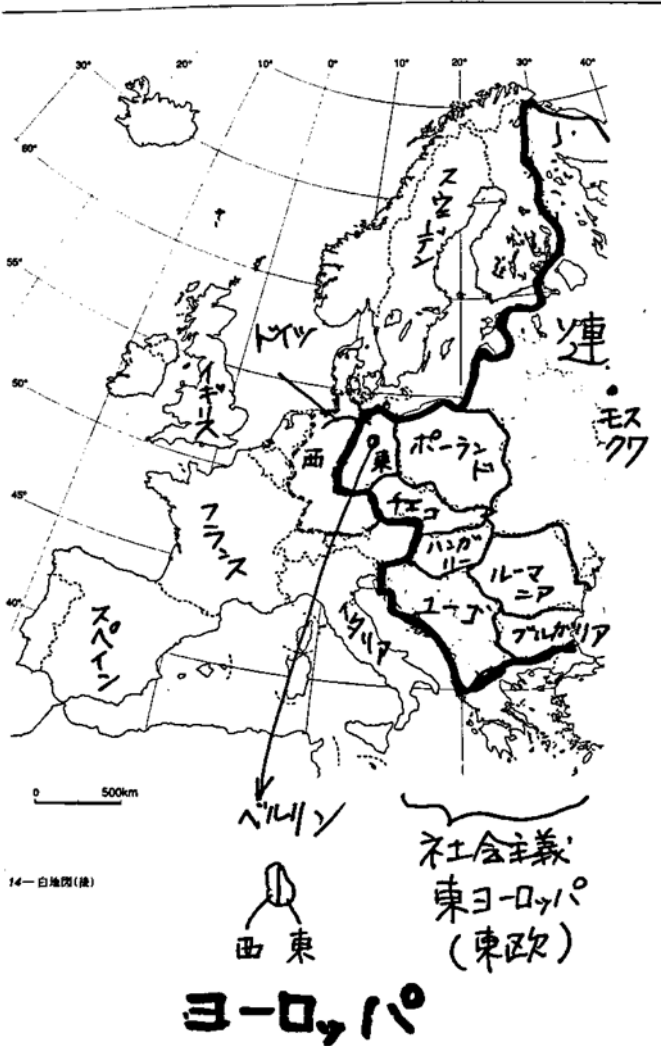
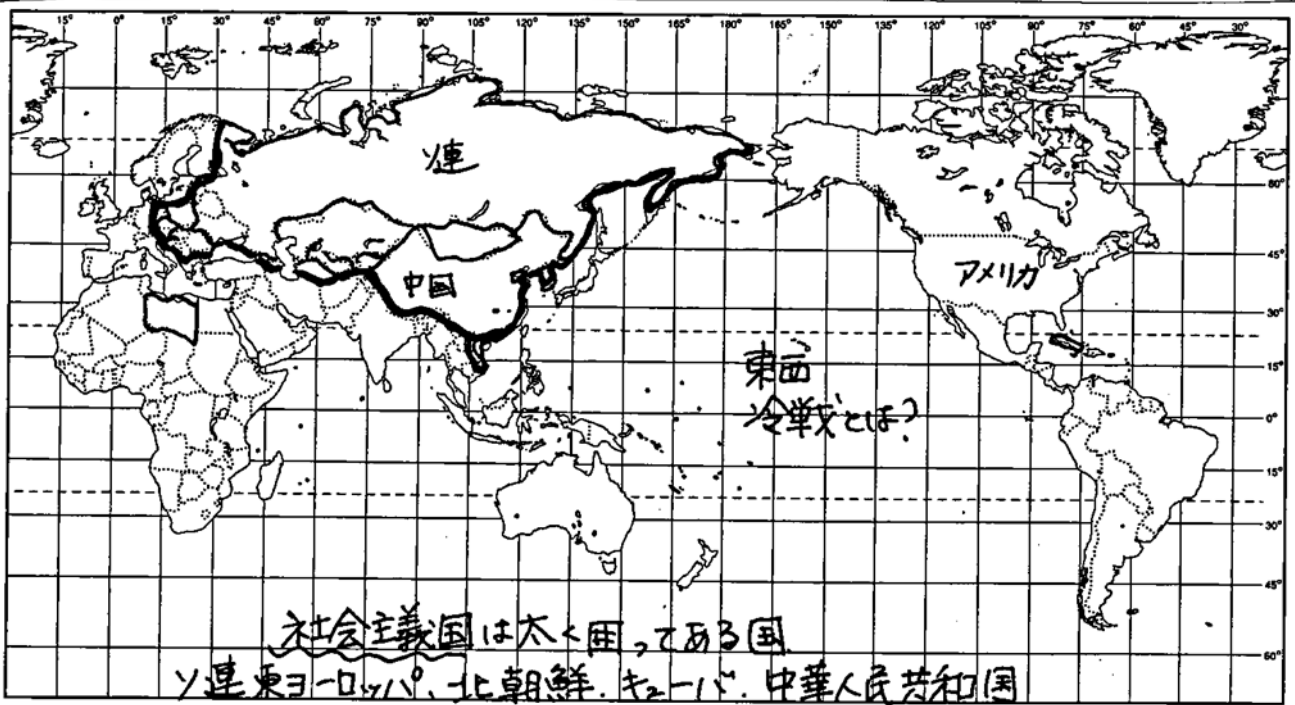
その後、担当課長が私たちに、「スパイ戦に女を使う理由を知っているか？それが、美人計(武器としての色仕掛け)というものだ。必要ときには身体もあたえるのだ。そんな覚悟なしには工作員などつとまらない。外国で合法的な身分をえて活動するためには、その国の男と結婚するのが一番だ」

と、教養をくりひろげるのであった。こんな夜には、淑姫と私は同病相憐れむ心情になるのであった。
「あなたは革命のために誰にでも身体をあたえることなどできる？好きでもない外国の男と結婚することができる？」
「さあ……、ちょっと自信がない……」
「あまりにみじめじゃない、ねえ」
「そう、でももうここまでくると、どうしようもないじゃない？」
そんなとき、私たちはやや自暴自棄の気持ちで話を終るのであった。

166キロとは
東京から房総半島の先まで



東西冷戦の地図 約50年間 米ソ対立.



5 この女性スパイ・^{キムヒョンヒ}金賢姫は、日本とも、深い関係があった。

ここで、大まかに、第二次大戦後の朝鮮半島の歴史を振り返っておきましょう。(参考資料)

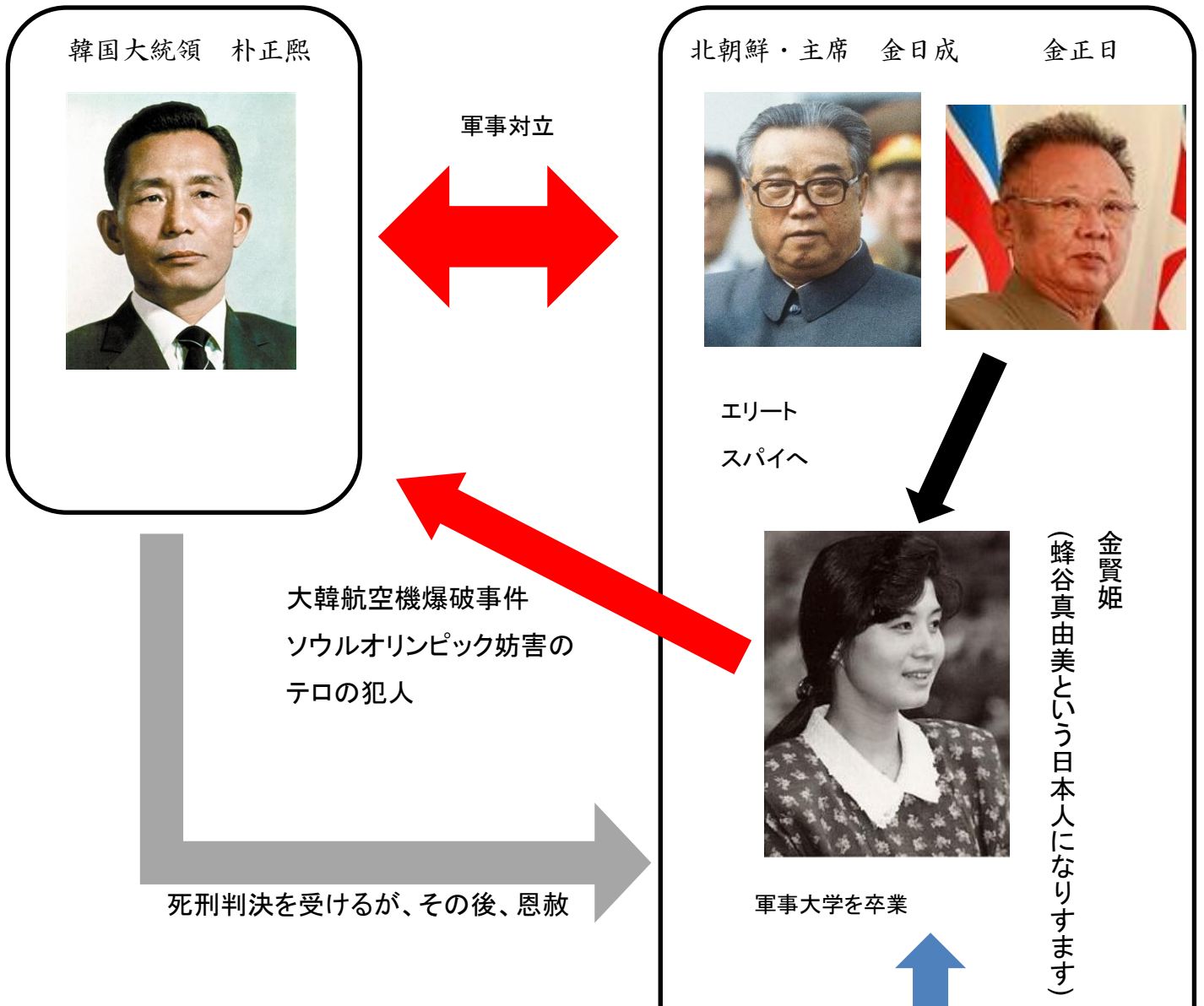
いつ	大きな事件	韓国	北朝鮮
1945・8・15 ～1948へ	日本が敗戦	大韓民国として独立	朝鮮民主主義人民共和国として独立
1950～1951	朝鮮戦争→休戦 朝鮮半島分断が確定	国連軍も参戦 各地で敵側?の一般市民の虐殺	中国軍も参戦
		1961 朴正熙クーデター 軍事政権誕生 アメリカと日本の資本を受け 入れ経済発展 映画「シルミド」の事件 →	金日成主席、政敵を粛正 社会主義・国有化へ 1963～1978 外国人の拉致 中国・ソ連の援助が減り 個人崇拜の独裁国家へ 1968 青瓦台襲撃未遂事件 金正日が後継者へ
		1979 朴正熙暗殺	
		1980 光州事件 市民が軍に制圧される	1983 大韓航空機爆破事件
1988	ソウルオリンピック	ソウルオリンピック	
		1992 民主化が始まる	1998 ミサイル発射実験
2000	南北首脳会談		
2002	日韓共催ワールドカップ		2002 拉致被害者 5人帰国 2011 金正日死去 金正恩が後継者に

この年表で分かるように、韓国は朝鮮戦争後 40 年間、北朝鮮は 70 年たった今も軍事政権の時代が続きました。その間は、とても怖ろしい国家としてのイメージが固定化していました。

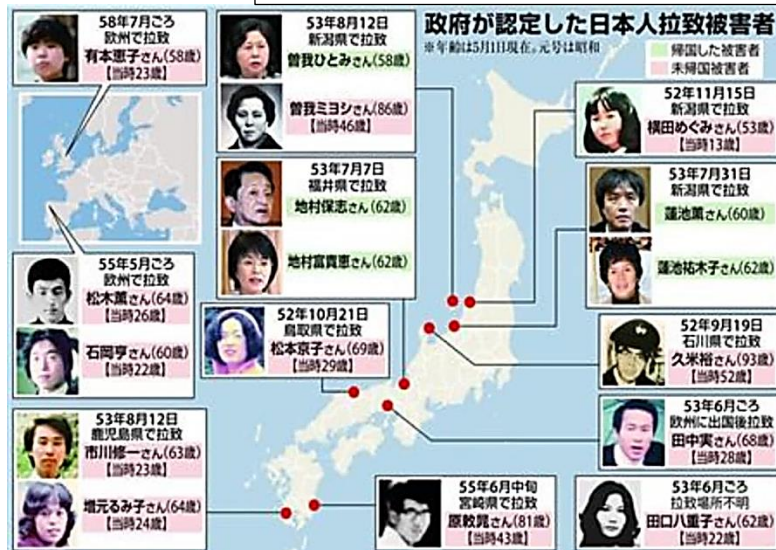
私の生まれて成長する 1956 年からの間も、ずっと、北朝鮮はもちろん、韓国も、軍事政権が続き、何があってもおかしくない拷問や逮捕、拘禁のある国として、観光も入国もためられるほどの国である期間が長く続きました。それぞれの国の内部の情報も、真実が世界に伝わって来ない…という状況でした。

大韓航空機爆破事件の金賢姫が、スパイとして捕まり、少しずつ北朝鮮の国の内部をインタビューで詳しく説明するようになって、改めて世界中から北朝鮮が、一般市民を拉致して、スパイの教育に利用されていたこともわかってきました。

大韓航空機爆破事件、日本人拉致事件の、当時の対立とそれぞれの人間関係



日本人拉致被害者＝連れ去られた人々



田口八重子さん

日本語を教え
日本人の習慣も教えた

6 映画「シュリ」を理解するために・・・

**なぜ愛し合っているのに、相手を撃たなければならないか、
二人の哀しみがわかったでしょうか？
命をかけてやるべき仕事だと、二人とも自分の国に、責任感を持っていた。
ところが、恋人が敵だった。敵を愛してしまった。**

それぞれが生まれ育った韓国と北朝鮮で、相手の国を攻撃するのが一番正しいこと、正義だと教えられ、国を守りたい、国の役に立ちたいと、二人はエリート教育を受け、プロのスパイ、スナイパー(狙撃手)になりました。

それこそが正義と思い込んできた二人が最後にどうなったか、それが恋人となった相手に、銃を向けることでした。

もし朝鮮半島が二つの国に分かれていなかったら、二人は、苦しむこともなく、殺し合うこともなく、幸せな恋人どうしになれたでしょう。

国が分かれているためだけにそういう運命になったのです。

私は、この映画を見て、朝鮮半島の人々が南北に分断されてしまった悲しみを、初めて実感しました。韓国では4200万人中600万人の大ヒットとなりました。

大韓航空機爆破事件で金賢姫がつかまって、死刑判決を受けたのに、なぜ、その後、恩赦で許されたのか、私は、ずっと疑問に思っていました。その疑問が、この映画でようやく解けたのです。

同じ民族が、分断され、憎しみ合い、殺し合い、70年以上もの年月、敵意を抱いている。しかし、そうになってしまっているのは、政治と国と教育のせいであって、生まれる国が全く逆だったら、その立場で生きるしかないだろう……。そう韓国の人々は分断の痛みを感じてきたせいではないか。(現実に親族は国境の向こうにいる)

この爆破事件で、たくさんの人々が亡くなり、大きな痛みを抱える遺族の方たちがいても、その報復を一人のスパイの命には求めない・・・表側の憎しみと敵意、だけでなくその裏側の悲しみを、初めて知ったように思いました。

両方の国でスパイが、軍事政権時代、2万人近く、拷問や暗殺などで殺されました。二つの国はそれぞれ、恐ろしい部分を抱えていた国でした。日本に二つの国のスパイがよく来ていたことも事実ですし、拉致被害者横田めぐみさんを、連れ去ったこともありました。そして今もスパイ活動は行われています。

そして、北朝鮮のエリートだったスパイ金賢姫は、北朝鮮の国家に作られた人生を、その後、韓国の政治に翻弄されながら、今は韓国で生きています。



最近のキムヨンヒ

7 政治や国家に、翻弄される人々の人生

しかし、このような敵対する二つの国にしてしまった原因は、実は、日本、アメリカ、ソ連、に主にあるのです。

だからこそ、私は将来ぜひ、平和の中で朝鮮半島が一つの国になることを願います。

ベルリンとドイツができたのですからきっといつか実現するでしょう。

そう二つの国の人々が願っていることを知った上でこれからのアジアを見ていってほしいと思います。

そう子どもたちに話して、この授業は終わりです。

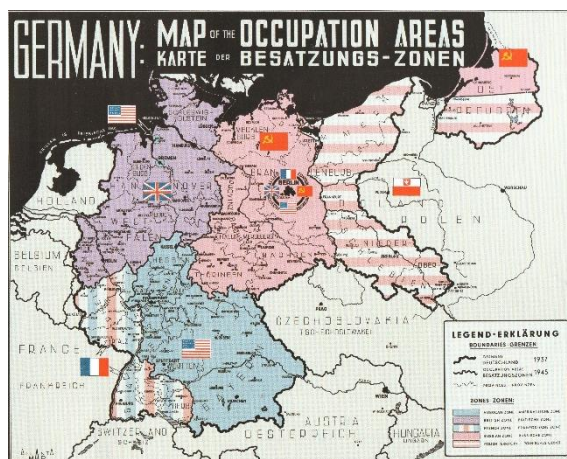
最後に、二つの視点から……………これは、参考に。

①朝鮮半島が、戦後二つに分かれた原因を、なぜ、日本が作っているというのか？

それは、東西冷戦のアメリカとソ連の対立にも原因がありますが、戦前の日本の植民地支配が無ければ、南北分断の原因の一つはなかったでしょう。

それを、痛烈に思ったのは、ベルリンの壁が解放された年に行った、ポツダム記念館の掲示板でした。

その掲示板には、戦後処理の地図が描かれていて、私が初めて知ったことですが、連合軍側は、敗戦国ドイツと、その首都ベルリンを、連合軍側の4か国で分断支配するようには取り決めていました。



実際に、その占領統治は行われ、やがて、戦後疲弊していたイギリスとフランスに代わり、西側代表として、アメリカが三カ国分の占領地域を支配することになりました。その地図を見ると、それがはっきり理解できます。

もし、同じように、敗戦国として、日本が、分断支配されて占領されていたら、日本が南北に分断され、今も体制が二か国のまま維持されていたかもしれません。

1945年には、まだソ連が、北海道に侵攻していず、朝鮮半島をソ連が南下し、日本列島に侵攻してくることを恐れて、アメリカは早く日本に降伏させたがっていました。

1945年のドイツ降伏から数か月の間の米ソの関係、原爆の兵器の完成、日本の降伏のタイミング……そういう偶然がいくつもあって、結果として朝鮮半島が、東西冷戦の最前線になり、今も分断の歴史が続いている。

そういう当時の現状を、初めて知りました。

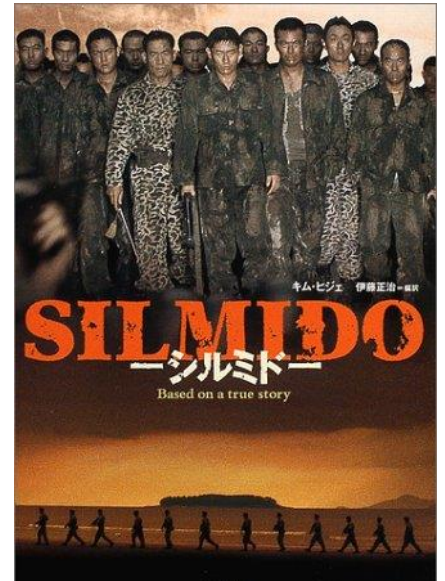
そういう歴史を知っているからこそ、戦中派の保守政治家たちも、中国や韓国、北朝鮮を侮るような、下に見るような態度を取らなかったのだと思っています。

② 映画「シルミド」と、NHKドキュメンタリーが見せてくれたもの

ちょうど同じ時期、2003年に映画「シルミド」が公開されました。

1968年の青瓦台襲撃未遂事件、つまり、北朝鮮のゲリラ部隊が、ソウルに侵入し、朴正熙大統領を暗殺しようとした事件(P6)で、北朝鮮兵士が「朴正熙の首を取りに来た」と言うのを聞いた朴正熙が激怒して、北朝鮮の金日成主席の暗殺部隊を作らせ、その後の顛末の史実をもとにして作られた映画です。

国の使命に応じようと、命をかけて訓練をした兵士たちが、国際情勢に左右される国家に裏切られ、暴発していく様子は、本当に胸の痛いものでした。



国家が何を個人にするのか、まるで、金賢姫の人生や、戦中戦後を生きた軍国少年軍国少女たちが、日本の国家に裏切られたのと、実によく重なって、個人と国家を考えるきっかけ、国に命を捧げるのはどういう意味があるのか…それを知ってもらいたくて、これも授業で見てもらいました。

相次いで放映されたのが、NHKのBSドキュメンタリー「シルミド」でした。

そちらは、さらに、現実起きたことを実感させる、非常に生々しい力作でした。

実際のシルミドの訓練場所を、当時の教官に案内してもらおうと、ピョンヤンをかたどった石膏の地形模型も打ち捨てられたまま。教官は、ほとんどしゃべることなく涙を流し、シルミドの石を拾い、記念に持ち帰ります。遺族たちは、真相究明と遺骨の搜索を、マスコミに号泣し、訴えていました。



訓練部隊の隠蔽、反乱鎮圧を絶対視した当時の軍事政権は、北に扇動された兵士だとして、生き残った兵士も処刑し、彼らの遺骨さえも、誰にも分らないように、空き地に打ち捨てて、知らないうちに埋められたとの証言もありました。

日本が、同時期には、高度経済成長を遂げていた・・・そういう後ろめたさを感じるのは、私だけでしょうか。

この映画もドキュメンタリーも大変好評で、韓国の理解にとっても役に立つと言われました。

映画「シルミド」あらすじ

……東西冷戦と国家が、いかに人々の
人生を狂わせてきたか、理解するために……

実際に韓国であった話。事件です。隊員たちの遺骨は
今もどこに埋められたのか、はっきりしない。

日本が戦争に負けた時、朝鮮半島は、35年間、日本の
植民地だった。日本がいなくなったので、朝鮮の人々は

独立ができると喜んだが、代わりにアメリカとソ連が
半島を二つに分けてしまった。(東西冷戦)

すぐそのあとに朝鮮戦争が起きる。(1950～1953)

その後、北朝鮮の金日成は、韓国の大統領朴正熙の

首を取ってこいと言う命令を出し、特殊部隊の兵士

30人を韓国に送りこむ作戦を試みたが、失敗。

そこで、韓国の大統領は、復習のために逆に北朝鮮の
金日成を殺す計画を立てた。

……ここからが映画の話です。

殺人部隊の訓練をして、約半年で、きびしい訓練は終わり、
いつでも北朝鮮に海岸線から侵入する用意ができていた。

訓練中に事故で死亡した兵士もいたが、訓練を受けた
兵士たち全員、国のため、命を捨てる覚悟ができていた。

ところが世界の情勢は変化し、強硬路線は取れなく
なっていた。朴大統領自身が取りやめる決断をした。

なぜなら、強硬に北朝鮮に向かえば、

アメリカが韓国を見放すだろうと思われた。

しかし、すぐにでも命を捨てる覚悟をして人を殺す

訓練を毎日続けていた部隊の兵士たちは、

いつまでも飼いかたのように、将来が見えない
待遇に不満を持っていた。

いつでも北朝鮮へ行けるのに、暗殺作戦を実行できる
のに実行させてもらえない不満を、なんとか大統領に

伝えたいと、訓練をしていた島を抜け出し、

ソウルの大統領官邸へ向かおうと、

バスをハイジャックして向かうのだった……。



「映画『シュリ』から、現代史：朝鮮半島の戦後と今を
少しでも知ろう！」の授業

目次

- 0 2002年 World Cup サッカー日韓共催のことを知っていますか？
- 1 映画『シュリ』を見よう！ プリントから……あらすじ
- 2 映画『シュリ』の中に反映されている現実は？
- 3 実際にいた北朝鮮スパイ……大韓航空機
- 4 実際のスパイが受けた、北朝鮮の受けたエリート教育と訓練は？
- 5 この女性スパイ・キムヒョンヒ金賢姫は、日本とも、深い関係があった。
- 6 映画「シュリ」を理解するために……
- 7 政治や国家に、翻弄される人々の人生
 - ①朝鮮半島が、戦後二つに分かれた原因を、なぜ、日本が作っているというのか？
 - ② 映画「シルミド」と、NHKドキュメンタリーが見せてくれたもの